

3大核大国の結節点から和の時代が始まる

朝鮮半島と 日本列島の使命

中露米の3大核大国に囲まれた
日本・韓国・朝鮮が世界の命運を握っている！

竹島独島問題が北方領土・尖閣諸島問題に連鎖、
死者32万人の「南海トラフ」巨大地震の被害想定も重なり、
東アジア情勢は一触即発の危機に瀕している。
導火線に火がつけば、中国、露国、米国を巻き込んだ

人類史上例のない深刻な局面に！！

朝鮮半島と 日本列島の使命

—3大核大国の結節点から和の時代が始まる—

目 次

正義から「和譲」、そして和へ	小松昭夫	1
朝鮮半島と日本列島の使命	小松昭夫	5
和譲 京都会談 朝鮮半島と日本列島の使命		30
インタビュー 日本出雲から未来を拓く		57
大韓民国 月刊「市民時代」小松昭夫理事長インタビュー		75
「和の文化」を生み出すHNSプロジェクト構想 （オランダ・ハーグ 2012年5月4日「平和のための 博物館国際ネットワーク」理事会での発表骨子）		103
「和の文化」を生み出すHNSプロジェクト構想 英文		109
ズットナーゆかりの古城（ウィーン郊外）訪問の新聞記事		116
安重根義士殉国104周年追悼及び、国際交流会晩餐会の挨拶		119
ズットナー女史没後100周年を迎えて		123
ズットナー女史没後100周年を迎えて 英文		128
周藤彌兵衛翁の物語 悠久の河		135
周藤彌兵衛翁の物語 悠久の河 英文		141
八雲立つ「出雲から陽が昇る」		149
八雲立つ「出雲から陽が昇る」 英文		152
和して同ぜず 人間の正しい道	孟 白	156
「和譲」思想：東洋文化の核心	張 可喜	164
会社案内		172
参考資料		
旧満州の大地に眠る20万の遺骨		188
日本政府への手紙		189
朝鮮・日本軍「慰安婦」および 強制連行被害者問題対策委員会委員長の報告		193
日朝平壤宣言		204
ラフカディオ・ハーン著作集第5巻 神戸クロニクル論説集より		208
ラフカディオ・ハーンと「開かれた精神」	小泉 凡	239
年 表		242

正義から「和譲」、そして和へ

東西冷戦の終結後、米露中3大核兵器国の固定化、核拡散、情報通信の驚異的な発達、そして金融秩序の動揺に起因するG8の行き詰まりとG20の枠組みづくりが進められてきましたが、いまだ展望が開けない状況が続いています。

領土問題に端を発した島根県の「竹島の日」制定が遠因となり、韓国強制併合100年の節目の年である2010年、米国との沖縄普天間基地移設協議の混乱をきっかけに、尖閣諸島、北方領土問題が重なり、朝鮮半島と日本を取り巻く環境は激動期に入った観があります。

一方、2010年8月に来日したハーバード大学のマイケル・サンデル（Michael J. Sandel）教授が、41年前に全共闘の学生が立てこもった東大安田講堂で、「正義とは何か」と問いかけたことがNHKテレビの「ハーバード白熱教室」や各全国紙で大きく紹介され、出版された講義録が書店で平積みになるなど、世界のあり方を問い直すさまざまな社会現象も起こっています。

2011年が人類崩壊の入口か、それとも新たな発展の入口になるのか、核大国である中国・露国・米国の結節点に位置し、先端技術で世界に大きな影響力をもつ日本国、大韓民国、そして主体思想と先軍体制の下で核開発を進める朝鮮民主主義人民共和国の3カ国の動向は、その鍵を握っているといえます。

韓国・朝鮮・中国は、1948年～1949年、激化しつつあった東西冷戦構造の真っ只中で、「反日・愛国」の旗の下に生まれた国々です。これらの国々を隣国にもつ私たち日本人は、いまこそ、100年の長きにわたって苦勞された在日韓国・朝鮮の方々と、世界に先駆けて和を生み出すため、戦後・戦中・戦前の3つの責任に分け、世界史・人類史の視野で、いまなすべきことをテーマに話し合いを始める時です。現在人類が直面している混沌は、ある意味では、輝かしい未来を生み出すために通らなければならない必然であり、いま私たちには、知恵と勇気と行動が問われています。この機を逸すれば、この地を覆う困難はますます重篤化し、事態は中国、露国、米国を巻き込んだ人類史上例のない深刻な局面へと発展しかねません。

大韓民国・中華人民共和国・アメリカ合衆国・ロシア連邦を始めとする国々への20年間にわたる歴訪は、和の生れる前提条件を整える期間であったともいえます。時代と地の利、人の縁を得て、いま行動の時を迎えたと確信しています。

人類は、狂牛病・鳥インフルエンザ・SARSなどの微生物の脅威にもさらされています。その一方、新たな可能性を拓く微生物の発見や藻類に関する新しい知見、情報通信技術の目覚ましい発達と普及は、私たちに希望と勇気を与えています。日本人の生存条件は、大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国の人々とともに、先端科学・技術と発酵食文化の発達した朝鮮半島と日本列島を「恒久平和地帯」とし、人類喫緊の課題である環境と健康問題についての論議と研究を興し、世界「和」文化の発祥

の地とすることです。この地域に大きな影響力をもつ米国・中国・露国だけでなく、世界の人々の共感を得ることができ、必要な資金や人の流れが自然に形成され、ここから人類の新たなフロンティアが拓けることは間違いありません。

正義から「和譲」へ、そして和の時代への歩みがここから始まります。大韓民国で国民的な敬意を集めている安重根義士の100年前の言葉「人類社会代表重任」が、いま、私たちに問いかけています。

本書は研究所の講演、座談会、論文、インタビューと、2009年2月22日「竹島の日」に島根県松江市で650人が参加して開催された「混迷の時代 出雲から陽が昇る」講演会・シンポジウムで、安重根義士のドキュメント映像を見ていただいた後に発表いただきました、新華社通信の日本代表であった張可喜・中日経済交流協会北京事務所長、中国九三学社中央委員会委員の孟白・学苑出版社社長兼編集長のスピーチを掲載させていただきました。

また、図書新聞（2010年12月4日付）に掲載された李修京・東京学芸大学准教授のインタビュー「血と苦痛の涙で溢れる暗い未来を作らぬために」（証言／日本の「韓国併合」100年を掘り起こす シリーズ第9回）を掲載させていただきました。

さらに温故知新の視点から、日清戦争前後に小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が神戸クロニクル紙に寄せた論説と、小泉八雲の曾孫である小泉凡様からいただいた所感を掲載させていただきました。

読者の皆様の感想、反論、積極的な提言を心よりお待ちしております。
います。

ご協力いただいた、安斎育郎・立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長、卞宰洙・朝鮮民主主義人民共和国教授、具末謨氏、西村克己・日刊工業出版プロダクション部長、趙成斗・新社会共同善運動連合事務総長、韓国の月刊誌「市民時代」の徐世旭編集長、戸塚悦朗・元龍谷大学教授、金祐赫・檀國大学校名誉教授、金容雲・韓国数学文化研究所長、原幹雄・報光社社長と昌子泰久・松江支社長に、厚く御礼を申し上げます。渡邊邦昭・ウィンワークス社長には米国からみた日本を考える上で大きな示唆を賜りました。

李修京・東京学芸大学准教授と、図書新聞編集部の立原省一様には、インタビュー記事の再録をご快諾いただきました。朴井愚朝鮮人総联合会鳥取県本部委員長と、加藤和徳日朝友好鳥取県有志会代表には、掲載しました手紙と報告の翻訳及び、朝鮮対外文化連絡協会を通じ同国の掲載許可を仲介いただきました。感謝申し上げます。

最後になりましたが、小泉八雲論説の収録をご承諾いただいた高橋良一・恒文社編集出版部長、小泉八雲の翻訳者、故・佐藤和夫氏夫人の佐藤敦子様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。巻末に恒文社発行の「ラフカディオ・ハーン著作集」の広告を掲載しましたので、ご参照ください。

一般財団法人人間自然科学研究所理事長 小松昭夫